「与党知る野党」政権奪還準備整う

ガツンと聞く 谷垣総裁の本音！

インタビュアー 小泉 進次郎 新聞出版局次長

総合ビジネス経済紙「フジサンケイビジネスアイ」（日刊）にわが党のページが設けられることになった。10月27日付発行号から毎月1回、わが党の役員に党新聞出版局長・次長がインタビューする記事が掲載される。第1回は小泉進次郎次長が谷垣禎一総裁に聞く。題して「ガツンと聞く谷垣総裁の本音！」。同記事を転載する。

小泉進次郎新聞出版局次長　昨年の衆院選では、ものすごい逆風が自民党に吹き、自民党は野党になりました。しかし、「与党ボケ」が取れていないというお叱りの声を今でもよく聞きます。野党らしくしなければならない点は何ですか。

谷垣禎一総裁　国民は、日々の生活の中で不安を抱えたり、憤りを感じたりしています。野党がそういう国民の憤りとか不安を代弁できないようでは、野党としての役割を果たせません。もっと国民の怒りを自分のものとして怒ることが大事です。

しかし、その半面、与党からすれば参院は野党が多く、予算や法案を通すのもなかなか簡単ではない状況です。ついこの間まで、われわれがこのような「ねじれ」状況にかなり苦労しました。自民党は、本当に重要な法案が通らない辛さを知っている野党です。だから、「何でも反対」で済ますわけにはいきません。

そういう意味では、今の与党・民主党は、ある意味で幸せです。例えば、私は、国会開会中でも菅直人総理はアジア欧州会議（ＡＳＥＭ）に行くべきだと言った。欧州と東南アジア諸国連合（ＡＳＥＡＮ）が集まる場に、尖閣問題がある中、中国の温家宝首相はいるけれど菅総理はいないという構図は、日本にとって絶対よくないと思ったからです。今までの野党だったら多分こういうことは言いませんでした。

小泉　「国会を開いているのだから、総理は国会に張り付け！」と言い張っていたと思います。理性ある大人の対応という部分と、それをすることで、野党らしさを出せないジレンマを感じますか。

谷垣　それは感じます。自民党の支持者は、「がんがん攻撃せよ」という人も多い。だけど「攻撃ばかりしていないで、自民党だったらどうするのか」と、答えを求めている人もとても多い。たぶん両方やらないといけないと思う。だけど両方やっていると、なかなか相手を倒せないので、その辺のさじ加減が重要です。

物事動かない現実

小泉　与党としての議員と野党としての議員の最も大きな違いは何ですか。

谷垣　選挙区の人たちから悩みや相談を受けたとき、与党時代はそれを党の部会で発言したり、役所に言って有権者の声を具体的な形にすることができたのですが、野党になると、いろいろやってもなかなか物事が動いていかないという現実があります。これは、やっぱり面白くない。矛盾や問題があると思ったことを、自分の発言なり行動によって、動かせる実感は与党のほうがずっと大きい。

小泉　くやしいことのほうが多いですか。

谷垣　与党の経済運営、あるいは外交にしても、「ちょっとどうかな」と思うことばかりです。「俺にやらせれば、こうするんだけどな」ということの繰り返しです。そこはちょっとむなしいというか、物足りない思いでいっぱいです。

小泉　野党議員に向いている自民党議員はいますか。

谷垣　小泉さんもそうかもしれないけど、みんな結構、野党の議員として質問の仕方も上達し、だんだん上手に政府を追及できるようになっていますよ。でも、あんまり野党慣れしちゃうことはいけませんけどね（笑）。

小泉　進次郎（こいずみ・しんじろう）

神奈川県第11選挙区（横須賀市、三浦市）選出。昭和56年生まれ。平成16年関東学院大学卒業。18年米国コロンビア大学大学院政治学部修士号取得。同年米国戦略国際問題研究所（ＣＳＩＳ）研究員。現在は衆院内閣・予算・議運の各委員、党遊説局長代理・青年局次長（学生部長）・新聞出版局次長・外交副部会長などを務める。

「日本の国柄」大切

小泉　「いちばん」というのがわが党のキャッチフレーズですが、谷垣総裁にとっての「いちばん」をいくつか聞かせてください。まず、谷垣総裁の「いちばん大切なもの」は何ですか。

谷垣　個人として言えば、家族です。だけど、政治家として言うならば、ちょっと堅苦しい表現かもしれませんが、「日本の国柄」ということです。

戦後、みんなで頑張って、ここまですばらしい国をつくってきました。国民の勤勉さや教育水準の高さ、ふるさとや自分を育ててくれた家族に対する帰属意識の強さ、日本の風景の美しさなど。生まれ育ってきた国に対する愛着といいますかね、そういうものが政治家として、いちばん大事なのかなと思います。

小泉　では、「いちばんしたいこと」は何ですか。

谷垣　政権を取り戻したい。そして、小泉さんにしても、みんな志をもって政治の世界に入ってきたわけでしょ。与党になって、「自分がこの仕事をした」という実感をみんなに持ってもらいたいですね。

小泉　ちょっとソフトな質問になりますが「いちばんの好物」は何ですか。私はちなみに薄切りの豚肉の生姜焼きが大好きです（笑）。薄切りというのが結構ポイントで、厚切りは嫌なんです。しゃぶしゃぶ用の肉ぐらいの薄いのが僕は大好きですが、総裁は？

谷垣　子供のときから、家にお客さんが来て、ご馳走というと、すき焼きでした。母がうれしそうな声で、「さあ、今日はすき焼きよ」と言うと、こっちもうれしくなりました。

小泉　ああ、なるほど。

谷垣　実際のすき焼きの味そのものよりも、母がうれしそうな顔して、「今日はすき焼きよ」と言い、それで弟や従兄やなんかと「わあ、すき焼きだ！」と言って、みんなが喜ぶという雰囲気が好きでした。

きっと、すき焼きの味だけでなく、やっぱりそういう子供のときの思い出やなんかと一緒になってすき焼きが好きなんですね。

谷垣禎一総裁（左）にインタビューする小泉進次郎新聞出版局次長

政治がリスク背負うべき

小泉　いろいろ聞かせていただきましたが、最後に、弁護士出身の仙谷由人官房長官が総理以上の存在感を見せ、「陰の総理」といわれています。時に逃げ、時に攻める、また、時に開き直るというか、同じ弁護士出身として、ああいう老獪なやり方をどう思いますか。

谷垣　政権を自分が支えなければいけないということで相当前面に出て、いろいろやっているのは彼の努力の表れなのでしょう。しかし、公務執行妨害で逮捕された中国人船長の釈放にしても、政治でなければ、さばけるはずがないのに、責任を全部、検察に丸投げしています。これでは民主党の「政治主導」とは一体、何だったのかということになります。自民党時代には、こんなに居直った答弁をするということはありませんでした。

判断の当否を検察に押しつけるのではなく、政治がリスクを背負って国民に説明し、説得するという気概を示さなければいけません。これは、仙谷氏個人に対してというより、今の政権の、この問題に対する処理への批判です。政権を担っているという自覚をもっと持ってもらわなければ困ります。それが、できないのなら、今すぐ政権を返上していただきたい。われわれは、すでにシャドウ・キャビネット（影の内閣）をつくり、いつでも政権を担当する覚悟と準備は整っています。

谷垣　禎一（たにがき・さだかず）

京都府第５選挙区（福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、与謝郡）選出。昭和20年生まれ。47年東京大学法学部卒業。54年司法試験合格。58年衆院議員初当選（連続当選10回）。財務大臣、国土交通大臣などを歴任。党では、総務局長や政務調査会長を務め、平成21年第24代自由民主党総裁に就任。

このインタビューは10月27日付のフジサンケイビジネスアイに掲載されています。